

第 23 回 日本 IVF 学会学術集会

0-26

広島, 2020. 10. 31-11. 01

レルゴリクスは ART においてセトロレリクスの代替薬となり得るか

矢野 未来 1)、辻 勲 1)、前田 優磨 1)、大垣 彩 1)、水野 里志 1)、菊川 忠之 1)、
福田 愛作 1)、森本 義晴 2)

1) 医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック

2) 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

生殖補助医療(ART)における調節卵巣刺激において、従来から GnRH アゴニスト製剤であるセトロレリクスが用いられている。近年、子宮筋腫の治療薬として、新たな GnRH アゴニスト製剤であるレルゴリクスが開発された。レルゴリクスは経口薬で利便性が高く、安価であることから、セトロレリクスの代替薬となる可能性がある。本研究では、レルゴリクスが ART に応用できるかを検討することを目的とする。

【対象と方法】 当院で 2019 年 6 月から 2020 年 7 月の期間に、GnRH アンタゴニスト法による調節卵巣刺激を用いて採卵し、顕微授精を施行した患者 148 症例 162 周期を対象とした。セトロレリクスを皮下注射した 72 症例 76 周期(セトロレリクス群)と、レルゴリクスを経口投与した 81 症例 86 周期(レルゴリクス群)の ART 治療成績を後方視的に比較検討した。レルゴリクスとセトロレリクスは、主席卵胞が 14mm に達した時点から排卵誘起の当日または前日まで連日投与した。本研究は当院倫理委員会の承認を得て行った。

【結果】

採卵直前の LH 値は、レルゴリクス群がセトロレリクス群より有意に低値であった(2.1 ± 2.0 mIU/mL vs 3.3 ± 5.0 mIU/mL, $P < 0.05$)。なお、排卵後のため採卵がキャンセルになった周期は両群ともなかった。受精率は、レルゴリクス群がセトロレリクス群より有意に高率であった(83.9% vs 80.2%, $P < 0.05$)。レルゴリクス群とセトロレリクス群において、採卵数(11.1 ± 7.8 個 vs 14.2 ± 9.0 個)、成熟卵数(9.0 ± 6.3 個 vs 11.0 ± 7.4 個)、胚盤胞到達率(64.7% vs 63.2%)、良好胚盤胞到達率(54.7% vs 50.2%)、新鮮胚移植の臨床的妊娠率(63.5% vs 56.9%)は有意差を認めなかった。

【結論】

レルゴリクスを用いた GnRH アンタゴニスト法による ART 治療成績はセトロレリクスとほぼ同等であったことから、レルゴリクスは ART に応用できる可能性が示唆された。ただし、本研究は症例数が少なく、後方視的検討であるため、さらなる検討が必要である。